

第12回統合医療展での公開セミナー…その1

市川治療室No.331.2016.02

統合医療とは、近代西洋医療を軸に、漢方・鍼灸など伝統医療や栄養療法などの補完療法を組み合わせる医療です。

患者（利用者）個人のニーズに対応できるものとして、QOLを向上させるものとして、また医療費削減などの期待がもたれています。

厚生労働省の統合医療についての見解は、以下の通りです。

「近代西洋医学と前提として、これに相補（補完）・代替療法や伝統医学等を組み合わせて更にQOL（生活の質）を向上させる医療であり、医師主導で行うものであって、場合により多職種が協働して行うもの」

つまり、統合医療とは「西洋医科学」と「代替医療」の各々の長所を取り入れた医療で医師をリーダーとして多職種協働で行うものです。

統合医療展は、“医療”と“ヘルスケア産業”をつなぐ展示会です。

1月26日・27日、有明の東京ビッグサイト西ホール会場で開催されました。二日間で14,081名の来場とのこと（主催者発表）

来場された方々は、一般の方々の他に予防医療やヘルスケアサービスに関心がある医療・介護・福祉関係者でした。会場内には海外から参加者も見られました。

出展ブースはサプリメントなどの栄養療法、補完療法などの手技療法、生活習慣病予防やエイジングケア関係のクリニック&学会・団体など多職種、100店以上でした。

初日（26日）、主催者からの依頼により「鍼灸（師）と統合医療～介護予防と地域包括ケア～」のタイトルで60分の公開セミナーを下記の内容で受け持たせていただきました。

1・「鍼灸師」について

統合医療と鍼灸。鍼灸の費用対効果。鍼灸師の国家資格。鍼灸師の卒後研修。鍼灸学会と団体。日本の鍼灸と海外の鍼灸。日本の鍼灸師就労状況。日本の鍼灸師が使用する鍼など。

2・「鍼灸」について

鍼灸の刺激と身体反応（1980年代と現代の比較）。在宅患者と生物心理社会的疼痛症候群。鍼灸と医療保険。鍼灸が有効とされる疾患と症状など。

3・「鍼灸（師）と介護予防・地域包括ケアシステム」について

その他の専門職としての鍼灸師。在宅鍼灸ケアの症例。鍼灸師と介護予防運動指導員。介護予防運動ケアの実例。鍼灸と運動と介護予防。鍼灸師と多職種連携・災害鍼灸医療（ボランティア）など。